

**Family list**

3 family members for:

**WO9316048**

Derived from 3 applications.

- Already Cited
- 1 **SUBSTITUTED ACETAMIDE COMPOUND**  
Publication info: **CA2155320 A1** - 1993-08-19
  - 2 **No English title available**  
Publication info: **GB9202443D D0** - 1992-03-18
  - 3 **SUBSTITUTED ACETAMIDE COMPOUND**  
Publication info: **WO9316048 A1** - 1993-08-19

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

**BEST AVAILABLE COPY**

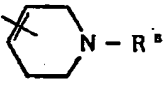
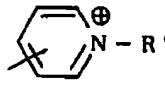

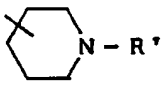
**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

PCT

世界知的所有権機関  
国際事務局

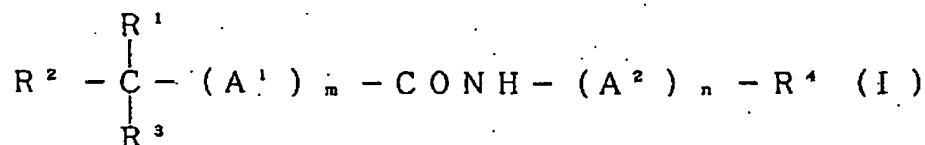


特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(51) 国際特許分類 5 C07D 211/26, 211/56, 211/70 C07D 211/72, 213/75, 453/02 A61K 31/435, 31/445		A1	(11) 国際公開番号 WO 93/16048
		(43) 国際公開日 1993年8月19日 (19.08.1993)	
(21) 国際出願番号 PCT/JP93/00142 (22) 国際出願日 1993年2月4日 (04. 02. 93)		(81) 指定国 AT (欧州特許), BE (欧州特許), CA, CH (欧州特許), DE (欧州特許), DK (欧州特許), ES (欧州特許), FR (欧州特許), GB (欧州特許), GR (欧州特許), IE (欧州特許), IT (欧州特許), JP, KR, LU (欧州特許), MC (欧州特許), NL (欧州特許), PT (欧州特許), SE (欧州特許), US.	
(30) 優先権データ 9202443.9 1992年2月5日 (05. 02. 92) GB		添付公開書類 国際調査報告書 請求の範囲の補正の期限前であり、補正書受理の際には再公開される。	
<p>(71) 出願人 (米國を除くすべての指定国について) 藤沢薬品工業株式会社 (FUJISAWA PHARMACEUTICAL CO., LTD.) (JP/JP) 〒541 大阪府大阪市中央区道修町3丁目4番7号 Osaka, (JP)</p> <p>(72) 発明者: および (75) 発明者/出願人 (米國についてのみ) 塩川 隆一 (SHIOKAWA, Youichi) (JP/JP) 〒567 大阪府茨木市穂積台9-814 Osaka, (JP) 谷口 清 (TANIGUCHI, Kiyoshi) (JP/JP) 〒654-01 兵庫県神戸市須磨区南落合2-1-28 Hyogo, (JP) 堀 一彦 (TAKE, Kazuhiko) (JP/JP) 〒584 大阪府富田林市向陽台3-3-2-201 Osaka, (JP) 橋 一典 (TSUBAKI, Kazunori) (JP/JP) 〒565 大阪府吹田市山田西3-21-3-108 Osaka, (JP) 水野裕章 (MIZUNO, Hiroaki) (JP/JP) 〒547 大阪府大阪市平野区瓜破東5-3-34 Osaka, (JP)</p> <p>(74) 代理人 弁理士 植木久一 (UEKI, Kyuichi) 〒580 大阪府大阪市北区堂島2丁目3番7号 シンコービル407 植木特許事務所 Osaka, (JP)</p>			
(54) Title : SUBSTITUTED ACETAMIDE COMPOUND			
(54) 発明の名称 置換酢酸アミド化合物			
$R^2 - \overset{\overset{R^1}{ }}{\underset{\underset{R^3}{ }}{C}} - (A^1)_m - CONH - (A^2)_n - R^4 \quad (I)$			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>(a)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(b)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(c)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(d)</p> </div> </div>			
(57) Abstract			
<p>An anticholinergic compound represented by general formula (I), wherein R<sup>1</sup> and R<sup>2</sup> represent each optionally substituted aryl, R<sup>3</sup> represents hydrogen, hydroxy or lower alkyl, R<sup>4</sup> represents a group of formula (a), (b), (c) or (d), A<sup>1</sup> and A<sup>2</sup> represent each lower alkylene, and m and n represent each 0 or 1.</p>			

(57) 要約

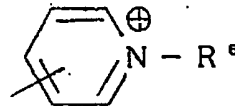
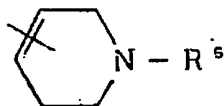
抗コリン作用を有する下記一般式の化合物



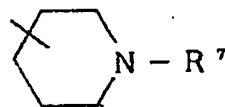
[式中、 $R^1$  および  $R^2$  は適当な置換基を有していてもよいアール基、

$R^3$  は水素、水酸基または低級アルキル基、

$R^4$  は式：



または



で示される基、

$A^1$  および  $A^2$  は低級アルキレン基、

$m$  および  $n$  はそれぞれ 0 又は 1 をそれぞれ意味する。

情報としての用途のみ

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第1頁にPCT加盟国を同定するために使用されるコード

AT オーストリア  
AU オーストラリア  
BE ベルギー  
BF ブルキナ・ファソ  
BG ブルガリア  
BJ ベナン  
BR ブラジル  
CA カナダ  
CF 中央アフリカ共和国  
CG コンゴ  
CH スイス  
CI コート・ジボアール  
CM カメルーン  
CS チェコスロヴァキア  
CZ チェコ共和国  
DE ドイツ  
DK デンマーク  
FI フィンランド  
ES スペイン

FR フランス  
GA ガボン  
GB イギリス  
GN ギニア  
GR ギリシャ  
HU ハンガリー  
IE アイルランド  
IT イタリア  
JP 日本  
KP 朝鮮民主主義人民共和国  
KR 大韓民国  
KZ カザフスタン  
LJ リヒテンシュタイン  
LK スリランカ  
LU ルクセンブルグ  
MC モナコ  
MG マダガスカル  
ML マリ  
MN モンゴル  
MR モリタニア

MW マラウイ  
NL オランダ  
NO ノルウェー  
NZ ニュージーランド  
PL ポーランド  
PT ポルトガル  
RO ルーマニア  
RU ロシア連邦  
SD スーダン  
SE スウェーデン  
SK スロヴァキア共和国  
SN セネガル  
SU ソヴィエト連邦  
TD チャド  
TG トーゴ  
UA ウクライナ  
US 米国  
VN ヴェトナム

## 明 細 書

発明の名称

置換酢酸アミド化合物

技術分野

本発明は新規な置換酢酸アミド化合物および医薬として許容されるその塩に関し、詳細には抗コリン活性を有し、神経性頻尿、神経因性膀胱、夜尿症、不安定膀胱、膀胱痙縮、慢性膀胱炎、慢性前立腺炎などの疾患における頻尿症、尿失禁などの排尿障害の治療；胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃酸過多症、食道痙攣、胃炎、腸炎、過敏大腸症、腸疝痛、胆のう炎、胆管炎、幽門痙攣、膵炎、膵炎に伴う疼痛、胆道ジスキネジー、胆のう切除後の後遺症、尿路結石症、膀胱炎、月経困難症、多汗症、尿路痙攣などにおける痙攣および／または運動機能亢進の治療に有用であり、また喘息、パーキンソン病、狭心症などの治療に有用性が期待される新規置換酢酸アミド化合物および医薬として許容されるその塩に関するものである。

背景技術

本発明の一つの目的は、前記諸疾患の治療に有用な新規置換酢酸アミド化合物および医薬として許容されるその塩を提供することにある。

本発明のいま一つの目的は、前記置換酢酸アミド化合物または医薬として許容されるその塩を有効成分として含有する、前記諸疾患の治療剤として有用な製剤を提供することにある。

発明の開示

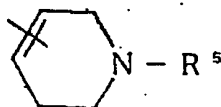
この発明の目的化合物である置換酢酸アミド化合物は新規であり、下記の式（I）で表わされる。



[式中、 $R^1$  および  $R^2$  は適当な置換基を有していてもよいアリール基、

$R^3$  は水素、水酸基または低級アルキル基、

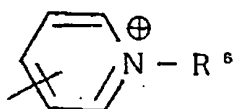
$R^4$  は (i) 式：



(式中、 $R^5$  は水素、メチル基、エチル基、プロピル基、  
イソプロピル基またはイミノ保護基を意味する)

で示される基、

(ii) 式：



(式中、 $R^6$  は低級アルキル基を意味する)

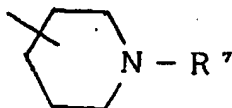
で示される基、

(iii) 式：



で示される基、または、

(iv) 式：



(式中、R<sup>7</sup> は水素、低級アルキル基またはイミノ保護基を意味する)

で示される基、

A<sup>1</sup> および A<sup>2</sup> は低級アルキレン基、

m および n はそれぞれ 0 又は 1 をそれぞれ意味する。

(ただし、(a) R<sup>1</sup> および R<sup>2</sup> がフェニル基であり、R<sup>3</sup> が水酸基であり、A<sup>2</sup> がメチレン基であり、m が 0 であり、n が 1 のときは、R<sup>5</sup> はエチル基でなく、また、

(b) R<sup>1</sup> および R<sup>2</sup> がフェニル基であり、R<sup>3</sup> が水酸基であり、m および n が 0 のときは、R<sup>7</sup> はメチル基でない。) ]

目的化合物 (I) においては、不斉炭素原子を有することもあり、この様な場合における立体異性体も本発明の技術的範囲に含まれる。

目的化合物 (I) を製造するに当たっては、後述する製造例に示す様な方法に従って製造される化合物を原料物質とし、同じく後述する実施例に示す様な方法に従って製造すれば良い。

目的化合物 (I) の好適な塩類は常用の無毒性塩類で有り、例えばギ酸塩、酢酸塩、トリフルオロ酢酸塩、マレイン酸塩、酒石酸

塩、メタンスルホン酸塩、ベンゼルスルホン酸塩、トルエンスルホン酸塩等の有機酸塩、例えば塩酸塩、臭化水素酸塩、沃化水素酸塩、硫酸塩、硝酸塩、燐酸塩等の無機酸塩のような酸付加塩、または例えばアルギニン、アスパラギン酸、グルタミン酸等のアミノ酸との塩、または例えばナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩および例えばカルシウム塩、マグネシウム塩等のアルカリ土類金属塩のような金属塩、アンモニウム塩、例えばトリメチルアミン塩、トリエチルアミノ塩、ピリジン塩、ピコリン塩、ジシクロヘキシルアミン塩、N-N'-ジベンジルエチレンジアミン塩等の有機塩基塩等が挙げられる。

この明細書の以上および以下の記載において、この発明の範囲内に包含される種々の定義の好適な例および説明を以下詳細に述べる。

「低級」とは、特に指示がなければ、炭素原子1個ないし6個、好ましくは炭素原子1個ないし4個を意味するものとする。

「適当な置換基を有していてもよいアリール基」における「アリール基」の適当な例としては、フェニル基、ナフチル基、ペンタレニル基、アントラセニル基などが挙げられ、なかでもとりわけフェニル基が好ましい。

上記「アリール基」に置換され得る「適当な置換基」としては、例えば、ハロゲン（例えば、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素）、低級アルキル基（例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、セーブチル、ペンチル、ヘキシル等）、低級アルコキシ基（例えば、メトキシ、エトキシ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、セーブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシ等）など



が示され、これらの置換基による置換数は1個以上（好ましくは1ないし3個）である。

従って「適当な置換基を有していてもよいアリール基」の好ましい例としては、ハロゲン、低級アルキル基および低級アルコキシ基からなる群から選択された適当な置換基を1個有するフェニル基が挙げられ、さらに好ましい例としては、ハロゲンを有するフェニル基、(C<sub>1</sub> - C<sub>4</sub>)アルキル基を有するフェニル基および(C<sub>1</sub> - C<sub>4</sub>)アルコキシ基を有するフェニル基が挙げられ、最も好ましい例としては、塩素を有するフェニル基、フッ素を有するフェニル基、メチルを有するフェニル基、メトキシを有するフェニル基が挙げられる。

「低級アルキル基」の適当な例としては、直鎖および分岐鎖のもの、例えば、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基、セーブチル基、ペンチル基、ヘキシル基などが挙げられ、それらの中で好ましい例としては、(C<sub>1</sub> - C<sub>4</sub>)アルキル基が挙げられ、さらに好ましい例としては、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、ブチル基およびセーブチル基が挙げられる。

「イミノ保護基」の適当な例としては、常用の保護基、すなわち、例えばトリチル、ベンズヒドリル、ベンジル、4-メトキシベンジル等の置換もしくは非置換のアル（低級）アルキル基、ジニトロフェニル基、例えば1-メトキシカルボニル-1-プロペン-2-イル等の低級アルコキシカルボニル（低級）アルケニル基、例えば1-ベンゾイル-1-プロペン-2-イル等のアロイル（低級）アルケニル基、例えば2-ヒドロキシベンジリデン等のヒドロ

キシアル（低級）アルキリデン基、例えばトリメチルシリル等のトリ（低級）アルキルシリルのようなシリル化合物、下記アシル基等が挙げられる。

好適な「アシル基」としては、脂肪族アシル基、芳香族アシル基、複素環アシル基、および芳香族基または複素環基で置換された脂肪族アシル基が挙げられる。

脂肪族アシル基としては、カルバモイル基、例えばホルミル、アセチル、プロピオニル、ブチリル、イソブチリル、バレリル、イソバレリル、ピバロイル、ヘキサノイル等の低級アルカノイル基、例えばメシル、エタンスルホニル、プロパンスルホニル等の低級アルカンスルホニル基、例えばメトキシカルボニル、エトキシカルボニル、プロポキシカルボニル、ブトキシカルボニル、第三級ブトキシカルボニル等の低級アルコキシカルボニル基、例えばアクリロイル、メタクリロイル、クロトノイル等の低級アルケノイル基、例えばシクロヘキサンカルボニル等の（C<sub>3</sub> - C<sub>7</sub>）シクロアルカンカルボニル基、アミジノ基、例えばメトキサリル、エトキサリル、第三級ブトキサリル等の低級アルコキサリル基のような保護されたカルボキシカルボニル基等のような、飽和または不飽和の非環式または環式アシル基が挙げられる。

芳香族アシル基としては、例えばベンゾイル、トルオイル、キシロイル等のアロイル基、例えばベンゼンスルホニル、トシル等のアレエンスルホニル基等が挙げられる。

複素環アシル基としては、例えばフロイル、テノイル、ニコチノイル、イソニコチノイル、チアゾリルカルボニル、チアジアゾリルカルボニル、テトラゾリルカルボニル、モルホリノカルボニル等の

複素環カルボニル基等が挙げられる。

芳香族基で置換された脂肪族アシル基としては、例えばフェニルアセチル、フェニルプロピオニル、フェニルヘキサノイル等のフェニル（低級）アルカノイル基のようなアル（低級）アルカノイル基、例えばベンジルオキシカルボニル、フェネチルオキシカルボニル等のフェニル（低級）アルコキシカルボニル基のようなアル（低級）アルコキシカルボニル基、例えばフェノキシアセチル、フェノキシプロピオニル等のフェノキシ（低級）アルカノイル基等が挙げられる。

複素環基で置換された脂肪族アシル基としては、チエニルアセチル、イミダゾリルアセチル、フリルアセチル、テトラゾリルアセチル、チアゾリルアセチル、チアジアゾリルアセチル、チエニルプロピオニル、チアジアゾリルプロピオニル等が挙げられる。

これらのアシル基はさらに、カルボキシ基、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、第三級ブチル、ペンチル、ヘキシル等の低級アルキル基、例えば塩素、臭素、沃素、弗素のようなハロゲン、カルバモイル基、例えばホルミル、アセチル、プロピオニル等の低級アルカノイル基、例えばベンジル等のアル（低級）アルキル基、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、第三級ブチル等の低級アルキル基、例えばメトキシカルボニル、エトキシカルボニル、第三級ブトキシカルボニル等の低級アルコキシカルボニル基、例えばベンジルオキシカルボニル等のアル（低級）アルキルオキシカルボニル基、例えばフェニルオキシカルボニル等のアリールオキシカルボニル基、例えばカルボキシメチル、カルボキシエチル等のカルボキシ（低級）アルキル基、例え

ば第三級ブトキシカルボニルメチル等の保護されたカルボキシ（低級）アルキル基等が挙げられる。

「低級アルキレン基」の適当な例としては、直鎖および分岐鎖のもの、例えば、メチレン基、エチレン基、トリメチレン基、テトラメチレン基、1, 1-ジメチルエチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基等が挙げられ、それらの中で好ましい例としては(C<sub>1</sub> - C<sub>4</sub>)アルキレン基が挙げられ、より好ましい例としてはメチレン基およびエチレン基が挙げられる。尚目的化合物(I)においてm, nはいずれか一方または両方共に0である場合があり、このときはこの様な低級アルキレン基を介さない結合が形成される。

本発明における種々の定義については以上代表例をもって示した通りであり、これらは任意の組合せの下で目的化合物(I)を構成する。しかしながら下記の組合せは本発明の範囲に含まれないものとする。

- (a) R<sup>1</sup> および R<sup>2</sup> がフェニル基、R<sup>3</sup> が水酸基、A<sup>2</sup> がメチレン基、mが0、nが1、R<sup>5</sup> がエチル基となる組合せ
- (b) R<sup>1</sup> および R<sup>2</sup> がフェニル基、R<sup>3</sup> が水酸基、mおよびnが0、R<sup>7</sup> がメチル基となる組合せ

一方本発明における種々の定義のうち特に好ましいものとしては、R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup>としてフェニル基、弗素を有するフェニル基、R<sup>3</sup>として水素、水酸基、メチル基、mが0または1、A<sup>1</sup>がメチレン基、nが0または1、A<sup>2</sup>がメチレン基またはエチレン基、R<sup>5</sup>が水素、メチル基、エチル基、イソプロピル基、イミノ保護基、R<sup>6</sup>がエチル基、R<sup>7</sup>が水素、メチル基、エチル基、イソプロピル基ま

たはイミノ保護基が夫々示される。

### 発明の効果

この発明の化合物（I）およびその塩類は、抗コリン活性を有し、ヒトおよび動物における排尿障害、その他前記の諸疾患の治療に有用である。

化合物（I）およびその塩類においては、散瞳などの副作用が軽減されるという特徴がある。

化合物（I）の有用性を示すために、本発明の代表的な化合物の薬理試験データを下記に示す。

### 試験1

#### ラット圧負荷頻尿モデルにおける膀胱収縮の抑制に関する試験

##### 〔I〕試験方法

体重240～450gの雄性S.D.ラットをウレタン（1.0 g/kg）皮下注射で麻酔した。膀胱を腹部正中切開によって露出し、膀胱内圧を次のように記録した。ステンレス管（外径1.2mm、長さ5cm）の一端につけたバルーンを膀胱ドームへの小切開を通して膀胱内に挿入した。管のもう一端は圧トランスデューサーに連結した。尿管を結紮して切断し、膀胱側の切断端にポリエチレン管カニューレを挿入し、尿を外に導いた。

過剰膀胱運動（利尿筋の収縮運動過剰）を膀胱に水を満たすことによって惹起した。膀胱内のバルーンは約10mmHgの水圧をかけた。総頸動脈から全身血圧と心拍数をモニターした。

水による圧負荷に対する膀胱の収縮反応が一定になった時試験化合物を静脈内投与した。

##### 〔II〕試験化合物

試験化合物 (1) :

N - (1, 2, 3, 6 - テトラヒドロピリジン - 4 - イル) メチ  
ル - 2 - ヒドロキシ - 2, 2 - ジフェニル酢酸アミド

### 〔Ⅲ〕試験結果

各試験化合物の  $ED_{50}$  値 (mg/kg) は 0.005 (mg/kg) であった。

この発明の医薬用組成物 (排尿障害の予防および/または治療剤) はこの発明の化合物 (I) または医薬として許容されるその塩類を有効成分として含み、直腸投与、肺投与 (鼻または口腔内吸入)、鼻腔内投与、経眼投与、外用 (局所投与)、経口投与、非経口投与 (皮下投与、静脈内投与、筋肉内投与を含む) または吸入や膀胱内投与に適した有機もしくは無機の担体または賦形剤と共に、固体状、半固体状または液体状の医薬製剤として使用される。活性成分は、錠剤、ペレット、トローチ、カプセル、坐剤、クリーム、軟膏、エアゾル、吸入用粉末、液剤、乳剤、懸濁剤、その他使用に適した種々の形態とするための、例えば汎用の非毒性且つ医薬的に許容される担体と混合して製剤化される。そして必要ならば、さらに助剤、安定剤、増量剤、着色剤、香料等を添加することもできる。本発明の医薬製剤中に含まれる化合物 (I) または医薬として許容されるその塩は、疾病の進行度や症状に対して希望する作用効果を発揮するに十分な量を含有させる。

本発明の医薬製剤をヒトまた動物に適用するに当たっては、静脈内投与、筋肉内投与、肺内投与、経口投与または吸入投与等の方法が好ましい。化合物 (I) の治療上有効投与量は投与経路、個々の患者の年齢や症状等によって変化するが、静脈内投与の場合は、ヒ

トまたは動物に対して1日量0.01~20mg/kg、筋肉内投与の場合は同じく0.1~20mg/kg、経口投与の場合は0.5~50mg/kgを、前記諸疾患の予防または治療目的で投与する。

以下本発明を説明するために製造例および実施例を示す。

#### 製造例 1

ベンジル酸(5.00g)と五塩化磷(9.4g)の混合物を100℃で3.5時間攪拌した。冷却後反応液に氷水(50ml)とジエチルエーテル(100ml)を加え、有機層を分取し食塩水で洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥した。溶媒を留去すると、2-クロロ-2,2-ジフェニル酢酸クロリドの粗製品(6.16g)が得られた。この粗製品(6.16g)を無水トルエン(50ml)に溶解させた溶液に、室温下4-(アミノメチル)ピリジン(1.97g)の無水トルエン(5ml)溶液を滴下した。反応混合物を室温で1時間攪拌した後、酢酸エチル(50ml)で希釈し、更に1N水酸化ナトリウム水溶液(50ml)を加えた。有機層を分取して1N水酸化ナトリウム水溶液で洗浄(各50ml, 3回)した後、溶媒を留去すると、N-(ピリジン-4-イル)メチル-2-クロロ-2,2-ジフェニル酢酸アミドの粗製品(9.06g)が得られた。この粗製品(9.06g)を1N塩酸(50ml)に溶解した溶液を70℃で2時間攪拌した。冷却後この溶液をジエチルエーテル(50ml)で洗浄し、次いで6N水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性とした。析出物を濾取すると、無色粉末状のN-(ピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド(6.37g)が得られた。

mp: 148-151 °C

IR(Nujol) : 3330, 1650, 1600, 760, 740, 690cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 4.33(2H, d,  $J=6.3\text{Hz}$ ), 6.85(1H, s),  
7.15-7.18(2H, m), 7.25-7.40(10H, m), 8.42-8.45(2H, m),  
8.84(1H, t,  $J=6.3\text{Hz}$ )

MASS( $m/z$ ) : 183, 105

### 製造例 2

N-(ピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド(80g)と4-メトキシベンジルクロリド(47.2g)のN,N-ジメチルホルムアミド(120ml)溶液を65℃で1時間攪拌した。冷却後、反応混合物をアセトン(500ml)とジエチルエーテル(100ml)で希釈し、氷冷下20分攪拌した。析出物を濾取すると、無色粉末状の4-[(2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニルアセチルアミノ)メチル]-1-(4-メトキシベンジル)ピリジニウムクロリド(107.57g)が得られた。

mp:205-208℃

IR(Nujol) : 3250, 3050, 1650, 1610, 750, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 3.76(3H, s), 4.55(2H, d,  $J=5.9\text{Hz}$ ),  
5.72(2H, s), 6.99(2H, d,  $J=6.7\text{Hz}$ ), 7.00(1H, s),  
7.25-7.40(10H, m), 7.53(2H, d,  $J=6.7\text{Hz}$ ),  
7.87(2H, d,  $J=6.7\text{Hz}$ ), 9.13(2H, d,  $J=6.7\text{Hz}$ ),  
9.11(1H, t,  $J=5.9\text{Hz}$ )

MASS( $m/z$ ) : 183, 93

### 製造例 3

4-アセチルアミノメチルピリジン(7.00g)と4-メトキシベンジルクロリド(6.8ml)のアセトン(100ml)溶液を還流条件下に4時間、続いて氷冷下に30分夫々攪拌を行った。析出物を濾取しアセト



ンで洗淨すると、吸湿性の4-アセチルアミノメチル-1-(4-メトキシベンジル)ピリジニウムクロリド(10.88g)が得られた。本品は精製することなく次工程(製造例4)の原料物質として用いた。

#### 製造例4

4-アセチルアミノメチル-1-(4-メトキシベンジル)ピリジニウムクロリド(10.88g)のメタノール(200ml)溶液に、水素化硼素ナトリウム(5.37g)を氷冷下少量ずつ添加し、この溶液を室温下13時間攪拌した。反応液に水(10ml)を加えた後、溶媒を留去した。残渣に酢酸エチルと水を加え、有機層を分取して食塩水で洗淨した後、硫酸マグネシウムで乾燥し溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、塩化メチレンとメタノールの混液(15:1)を溶出液として精製すると、淡黄色油状の4-アセチルアミノメチル-1-(4-メトキシベンジル)-1,2,3,6-テトラヒドロピリジン(7.27g)が得られた。

IR(film): 3300, 1650, 1610, 760 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ): 1.98(s, 3H), 2.10(br s, 2H),

2.56(t,  $J=5.7\text{Hz}$ , 2H), 2.95(br s, 2H), 3.52(s, 2H),

3.76(s, 2H), 3.80(s, 3H), 5.53(t,  $J=1.5\text{Hz}$ , 1H),

5.95(br s, 1H), 6.80-6.90(m, 2H), 7.20-7.30(m, 2H)

MASS(m/z): 274( $M^+$ ), 215, 121

#### 製造例5

製造例3と同様にして4-アセチルメチルピリジンから4-アセチルアミノメチル-1-プロピルピリジニウムアイオダイドを得た。

mp: 135-137 °C (アセトン洗浄品)

IR(Nujol) : 3250, 1670, 1640, 760, 750  $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 0.87(t,  $J=7.3\text{Hz}$ , 3H), 1.65-2.00(m, 2H),

1.97(s, 3H), 4.45-4.55(m, 4H), 7.96(d,  $J=6.8\text{Hz}$ , 2H)

8.67(t,  $J=5.8\text{Hz}$ , 1H), 8.98(d,  $J=6.8\text{Hz}$ , 2H)

MASS(m/z) : 193( $M^+$ ), 149, 107

#### 製造例 6

製造例 4 と同様にして製造例 5 で得られた化合物から 4-アセチルアミノメチル-1-プロピル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンを得た。

IR(film) : 3300, 3050, 1650, 750  $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 0.91(t,  $J=7.3\text{Hz}$ , 3H),

1.58(t, quartet,  $J=7.3\text{Hz}$ ,  $J=5.7\text{Hz}$ , 2H), 1.99(s, 3H),

2.23(br s, 2H), 2.30-2.40(m, 2H), 2.56(t,  $J=5.7\text{Hz}$ , 2H)

2.95(d,  $J=1.6\text{Hz}$ , 2H), 3.79(d,  $J=5.4\text{Hz}$ , 2H),

5.54-5.57(m, 1H), 5.66(br s, 1H)

MASS(m/z) : 196( $M^+$ ), 167, 96

#### 製造例 7

製造例 4 と同様にして 3-アセチルアミノメチル-1-エチルピリジニウムアイオダイドから油状の 3-アセチルアミノ-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンを得た。

bp 150 °C/0.08mmHg(kugelrohr)

IR(film) : 3270, 1640, 1540  $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 1.15(3H, t,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ),

1.99(3H, s,  $\text{COCH}_3$ ), 2.19(2H, m,  $\text{NCH}_2\text{CH}_2\text{CH=}$ ),

2.49 (2H, quartet,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{NCH}_2\text{CH}_3$ ),  
2.52 (2H, t,  $J=6\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}$ ),  
2.72 (2H, d,  $J=2.5\text{Hz}$ ,  $\text{NCH}_2\text{C=}$ ),  
3.78 (2H, d,  $J=5.5\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_2\text{N}$ ), 5.65 (1H, m,  $\text{HC=}$ ),  
5.8 (1H, m, NH)

MASS( $m/z$ ) : 182 ( $M^+$ ), 123, 110 (base), 108

#### 製造例 8

製造例 3, 4 と同様にして、4-アセチルアミノメチルピリジンとベンジルブロミドから出発し、4-アセチルアミノメチル-1-ベンジルピリジニウムブロミドを経て4-アセチルアミノメチル-1-ベンジル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンを得た。

IR(Film) : 3250, 1650, 740, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 1.98 (s, 3H), 2.00-2.15 (m, 2H),

2.15-2.35 (m, 2H), 2.97 (br s, 2H), 3.45 (s, 2H),

3.95-4.00 (m, 2H), 5.53 (br s, 1H), 5.84 (br s, 1H),

7.20-7.40 (m, 5H)

MASS( $m/z$ ) : 244 ( $M^+$ ), 185, 172

#### 製造例 9

4-アセチルアミノメチル-1-(4-メトキシベンジル)-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン (5.00g) と 6 N 水酸化ナトリウム水溶液 (16ml) のメタノール (32ml) 溶液を還流条件下に 23 時間加熱し、反応終了後溶媒を留去した。残渣に酢酸エチルと 1 N 水酸化ナトリウム水溶液を加え、有機層を分離した後、食塩水による洗浄、硫酸マグネシウムによる乾燥を行い、溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、塩化メチレンとメタ

ノールの混液 [ (10 : 1) ~ (2 : 1) ] で溶出すると、油状の  
4-アミノメチル-1-(4-メトキシベンジル)-1, 2, 3,  
6-テトラヒドロピリジン (2.31g) が得られた。

IR(film) : 3370, 1610, 760, 730 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 1.84(br s, 2H), 2.13(br s, 2H),  
2.57(t, J=5.8Hz, 2H), 2.99(br s, 2H), 3.20(br s, 2H),  
3.53(s, 2H), 3.80(s, 3H), 5.53-5.57(m, 1H),  
6.80-6.90(m, 2H), 7.20-7.30(m, 2H).

MASS(m/z) : 232( $\text{M}^+$ ), 202, 121

#### 製造例10

製造例9と同様にして4-アセチルアミノメチル-1-プロピル  
-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンから4-アミノメチル-  
1-プロピル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンを得た。

bp : 140-150  $^{\circ}\text{C}$ /10mmHg (Kugelrohr)

IR(Film) : 3270, 1600 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 0.92(t, J=7.3Hz, 3H), 1.10-1.70(br s, 2H),  
1.55(t, quartet, J=7.3Hz, J=5.7Hz, 2H),  
2.14(d, J=1.6Hz, 2H), 2.30-2.40(m, 2H),  
2.57(t, J=5.7Hz, 2H), 2.96-3.00(m, 2H), 3.10(s, 2H),  
5.53-5.57(m, 1H)

MASS(m/z) : 154( $\text{M}^+$ ), 125, 96

#### 製造例11

製造例9と同様にして、4-アセチルアミノメチル-1-ベンジ  
ル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンから4-アミノメチ  
ル-1-ベンジル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンを得

た。

IR(Film) : 3370, 3270, 1600, 740, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 1.61(s, 2H), 2.13(br s, 2H),  
2.58(t,  $J=5.8\text{Hz}$ , 2H), 2.95-3.05(m, 2H), 3.20(br s, 2H)  
3.59(s, 2H), 5.50-5.55(m, 1H), 7.20-7.37(m, 5H)

MASS( $m/z$ ) : 202( $M^+$ ), 172, 97

### 製造例12

製造例9と同様にして、3-アセチルアミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンから3-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンを得た。

bp : 100-105  $^{\circ}\text{C}$ /8.5mmHg(Kugelrohr).

IR(Nujol) : 3450, 3370, 3280, 3200 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 1.14(3H, t,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ),  
1.61(2H, s,  $\text{NH}_2$ ), 2.21(2H, m,  $\text{CH}_2\text{CH}_2\text{CH=}$ ),  
2.47(2H, quartet,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{NCH}_2\text{CH}_3$ ),  
2.49(2H, t,  $J=6\text{Hz}$ ,  $\text{NCH}_2\text{CH}_2\text{CH=}$ ), 2.93(2H, m,  $\text{CH}_2\text{N}$ ),  
3.20(2H, m,  $\text{CH}_2\text{N}$ ), 5.62(1H, m,  $\text{CH=}$ )

MS( $m/z$ ) : 140( $M^+$ ), 123(base), 110, 108

### 製造例13

3-アミノメチルピリジン(10.0g)の酢酸(30ml)溶液を攪拌しておき、室温下これに無水酢酸(17.5ml)を加えた。得られた混合溶液を室温下30分攪拌した後、減圧濃縮すると、粗製油状の3-アセチルアミノメチルピリジンが得られた。本品を製造例3の方法に従って沃化エチルと反応させ、生成物をn-ヘキサン/酢酸エチル混液で結晶化させると、淡黄色結晶状の3-アセチルアミノメチル-

1-エチルピリジニウムアイオダイドが得られた。

mp: 110-111 °C

IR(Nujol) : 3420, 3260, 1640 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.54(3H, t,  $J=7.5\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ),

1.93(3H, s,  $\text{COCH}_3$ ), 4.44(2H, d,  $J=6\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_2\text{NCO}$ ),

4.64(2H, quartet,  $J=7.5\text{Hz}$ ,  $\text{NCH}_2\text{CH}_3$ ),

8.12(1H, t,  $J=7.5\text{Hz}$ , pyridinium H),

8.43(1H, d,  $J=7.5\text{Hz}$ , pyridinium H),

8.59(1H, t,  $J=6\text{Hz}$ , NH), 9.0(2H, m, pyridinium H)

MASS(m/z) : 135, 107

#### 製造例14

3,3-ジフェニル-2-プロペン酸エチル(4.28g)を3N水酸化ナトリウム水溶液(28ml)およびエタノール(50ml)と混合してなる混合物を、室温下一夜放置し、次いで50°Cで2時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルと食塩水を加え、更に濃塩酸を加えて酸性にした。有機層を分離して硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を減圧留去すると、3,3-ジフェニル-2-プロペン酸が得られた。

mp: 158-161 °C (酢酸エチル洗浄品)

IR(Nujol) : 1690, 1660, 1610, 720, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 6.32(s, 1H), 7.10-7.40(m, 10H)

MASS(m/z) : 224( $\text{M}^+$ ), 179, 165

#### 実施例1

4-[ (2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニルアセチルアミノ)メチル]-1-(4-メトキシベンジル)ピリジニウムクロリド(100g)のメタノール(800ml)溶液に、窒素雰囲気中10-20 °Cで水素

化硼素ナトリウム(32.7g)を少しずつ添加した。得られた溶液を室温で1時間攪拌し、溶媒を留去した。残渣に酢酸エチル(1ℓ)と水(500ml)を加えて有機層を分離した。これを水(500ml), 食塩水(500ml)で順次洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を留去すると、粗製油状のN-[1-(4-メトキシベンジル)-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル]メチル-2-ヒドロキシー-2, 2-ジフェニル酢酸アミドが得られた。この粗製油状物とクロロ炭酸1-クロロエチルエステル(25ml)を塩化メチレン(700ml)に加えた混合液を1時間加熱還流し、更にメタノール(350ml)を加えた後この溶液を30分加熱還流し、溶媒を留去した。残渣を4N塩酸の酢酸エチル溶液で処理して結晶化させ、更にエタノールで再結晶すると、無色結晶のN-(1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシー-2, 2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩(41.64g)が得られた。

mp: 222-224 °C

IR(Nujol) : 3350, 1650, 750, 730, 690 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 2.15(2H, br s), 3.10(2H, t, J=5.9Hz),  
3.34(2H, br s), 3.70(2H, d, J=5.5Hz), 5.41(1H, br s),  
6.82(1H, s), 7.20-7.45(10H, m), 8.34(1H, t, J=5.5Hz),  
9.15(2H, br s)

MASS(m/z) : 322( $M^+$ ), 183, 95

## 実施例 2

N-[ (1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシー-2, 2-ジフェニル酢酸アミド(1.00g)をメタノール中10%パラジウム炭素で水素化した。触媒を濾去した

後、濾液を減圧濃縮し、残渣をエタノールで再結晶すると、N-[ (ピペリジン-4-イル) メチル ] -2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩 (0.35g) が得られた。

mp: 251-253 °C

IR(Nujol) : 3360, 2470, 1650, 1600, 750, 730, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.10-1.40(m, 2H); 1.50-1.80(m, 3H),  
2.65-2.90(m, 2H), 2.90-3.10(m, 2H), 3.10-3.30(m, 2H),  
6.75(s, 1H), 7.20-7.45(m, 10H), 8.28(br s, 1H),  
8.69(br s, 2H)

MASS(m/z) : 324( $M^+$ ), 183, 105

元素分析:  $\text{C}_{20}\text{H}_{24}\text{N}_2\text{O}_2 \cdot \text{HCl}$

計算値 C 66.56, H 6.98, N 7.76

実測値 C 67.04, H 7.09, N 7.76

### 実施例 3

実施例 2 と同様にして、N-[ (1-メチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル) メチル ] -2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミドから N-[ (1-メチル-ピペリジン-4-イル) メチル ] -2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩を得た。

mp: 237-239 °C

IR(Nujol) : 3430, 3150, 1670, 790, 770, 710, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.20-1.50(m, 1H), 1.60-1.80(m, 2H),  
2.20-3.20(m, 8H), 2.68(s, 3H), 6.73(s, 1H),  
7.20-7.35(m, 10H), 8.30(br s, 1H), 9.70-9.90(br s, 1H)

MASS(m/z) : 338( $M^+$ ), 183, 105



元素分析 :  $C_{21}H_{26}N_2O_2 \cdot HCl$

計算値 C 67.28 , H 7.26, N 7.47

実測値 C 67.64 , H 7.56, N 7.53

#### 実施例 4

N - [ [ 1 - ( 4 - メトキシベンジル ) - 1 , 2 , 3 , 6 - テトラヒドロピリジン - 4 - イル ] メチル ] - 2 - ヒドロキシ - 2 , 2 - ジフェニル酢酸アミド ( 1.03g ) とクロロ炭酸ベンジルエステル ( 0.437g ) の 1 , 2 - ジクロロエタン ( 10ml ) 溶液を室温で 4 時間攪拌し、水を加えて希釈した後、塩化メチレンで抽出した。抽出液を硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下に溶媒を留去した後、シリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、塩化メチレン/メタノール混液で溶出すると、油状の N - [ ( 1 - ベンジルオキシカルボニル - 1 , 2 , 3 , 6 - テトラヒドロピリジン - 4 - イル ) メチル ] - 2 - ヒドロキシ - 2 , 2 - ジフェニル酢酸アミド ( 0.797g ) が得られた。

IR (film) : 3390, 1690, 1670  $cm^{-1}$

NMR (CDCl<sub>3</sub>,  $\delta$ ) : 1.99 (2H, br s, =CCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>N),

3.52 (2H, t, J=5.5Hz, CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>NCOO), 3.76 (1H, s, OH),

3.90 (4H, m, =CHCH<sub>2</sub>NCOO and CONCH<sub>2</sub>), 5.13 (2H, s, OCH<sub>2</sub>),

5.37 (1H, br s, =CH), 6.49 (1H, m, CONH),

7.3-7.5 (15H, m, aromatic H)

MASS (m/z) : 183, 105, 91, 77

#### 実施例 5

N - [ [ 1 - ( 4 - メトキシベンジル ) - 1 , 2 , 3 , 6 - テトラヒドロピリジン - 4 - イル ] メチル ] - 2 - ヒドロキシ - 2 ,

2-ジフェニル酢酸アミド(2.77g)とクロロ炭酸-1-クロロエチルエステル(0.75ml)の1,2-ジクロロエタン(55ml)溶液を30分加熱還流した。反応混合液にメタノール(50ml)を加え、得られた溶液を1時間加熱還流した後、溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し塩化メチレン/メタノール混液(10:1)、次いでメタノール、更にメタノール/28%アンモニア水混液(10:1)で順次溶出して精製した。溶出液から溶媒を留去し、残渣を4N塩酸/酢酸エチル混液で処理して結晶化させ、更にメタノール/酢酸エチル混液で再結晶すると、無色結晶のN-[(1,2,3,6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩(1.33g)が得られた。

mp: 223-224 °C

IR(Nujol) : 3350, 1650, 750, 730, 690 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 2.15(br s, 2H), 3.10(t, J=5.9Hz, 2H),

3.34(br s, 2H), 3.70(d, J=5.5Hz, 2H), 5.41(br s, 1H),

6.82(s, 1H), 7.20-7.45(m, 10H), 8.34(t, J=5.5Hz, 1H),

9.15(br s, 2H)

MASS(m/z) : 322( $M^+$ ), 183, 95

#### 実施例 6

N-[(1-ベンジルオキシカルボニル-1,2,3,6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド(186mg)を25%臭化水素酸水溶液/酢酸(1.86ml)混液に溶解した溶液を氷冷下30分攪拌し、更に室温下3時間攪拌した後、減圧下に溶媒を留去した。残渣にジイソプロピル

エーテルと水を加えて分液し、水層を得て1 N水酸化ナトリウム水溶液でアルカリ性とした後、塩化メチレンで抽出した。塩化メチレン層を食塩水で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した後、減圧下に溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、塩化メチレン/メタノール混液で溶出すると、無色粉末状のN-[(1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド(85mg)が得られ、エタノールで再結晶した。

mp: 151-153 °C

元素分析:

計算値 C 74.51, H 6.88, N 8.69

実測値 C 74.59, H 7.08, N 8.74

IR(Nujol) : 3380, 3300, 1670 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 1.95(2H, m, =CCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>NH),

2.85(2H, t, J=5.5Hz, CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>NH),

3.23(2H, br s, =CHCH<sub>2</sub>NH), 3.35(2H, br, =NH and OH),

3.84(2H, d, J=5.5Hz, CONHCH<sub>2</sub>), 5.44(1H, br s, =CH),

6.70(1H, t, J=5.5Hz, CONH),

7.25-7.5(10H, m, aromatic H)

MASS(m/z) : 322(M<sup>+</sup>), 183(base), 105(base), 96(base)

#### 実施例 7

N-[(1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド(6.00g)のメタノール(60ml)溶液に、室温下メタンスルホン酸(1.79g)のメタノール(20ml)溶液を加えた。この混液を減圧濃縮し、残渣を結晶

させた後、エタノールで再結晶すると無色結晶のN-[(1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミドメタンスルホン酸塩(6.66g)が得られた。

mp: 195-197 °C

IR(Nujol) : 3400, 1670, 1590, 780, 750, 740, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 2.14(br s, 2H), 2.31(s, 3H),

3.14(t, J=6.1Hz, 2H), 3.51(br s, 2H),

3.71(d, J=6.1Hz, 2H), 5.40(br s, 1H), 6.81(s, 1H),

7.20-7.41(m, 10H), 8.36(t, J=6.1Hz, 1H),

8.65(br s, 2H)

MASS(m/z) : 323(M+1)

元素分析:  $\text{C}_{20}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}_2 \cdot \text{CH}_3\text{SO}_3\text{H}$

計算値 C 60.27, H 6.26, N 6.69, S 7.66

実測値 C 60.32, H 6.32, N 6.62, S 7.86

### 実施例 8

N-(1-エトキシカルボニルピペリジン-4-イル)-2, 2-ジフェニル酢酸アミド(4.00g) および水酸化カリウム(2.0g)のメチルセロソルブ(30ml)溶液を 3.5時間加熱攪拌した。反応混合物に酢酸エチル(100ml)と水(300ml)を加えて分液した。水層を酢酸エチルで抽出し(100ml $\times$ 3)、有機層と合して減圧下に溶媒を留去した。残渣を4N塩酸/酢酸エチル混液で処理するとN-(ピペリジン-4-イル)-2, 2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩が得られた。

mp: 233-235 °C (酢酸エチル洗浄品)

IR(Nujol) : 3500, 3300, 1630, 740, 720 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.45-1.75(m, 2H), 1.75-2.00(m, 2H),  
2.80-3.10(m, 2H), 3.10-3.25(m, 2H), 3.70-3.95(m, 1H),  
4.97(s, 1H), 7.10-7.40(m, 10H), 8.59(d,  $J=7.4\text{Hz}$ , 1H),  
8.86(br s, 2H)

MASS(m/z) : 294( $M^+$ ), 229, 167, 127

元素分析 :  $\text{C}_{19}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}\cdot\text{HCl}$

計算値 C 65.41, H 7.22, N 8.03

実測値 C 65.67, H 7.32, N 8.12

#### 実施例 9

実施例 8 と同様にして N-(1-エトキシカルボニルピペリジ  
ン-4-イル)-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド  
から N-(ピペリジン-4-イル)-2-ヒドロキシ-2, 2-ジ  
フェニル酢酸アミド塩酸塩を得た。

mp: 193-195  $^{\circ}\text{C}$  (アセトン洗浄品)

IR(Nujol) : 3300, 2700, 2600, 2470, 1660, 770, 750, 730, 700  
 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.60-2.00(m, 4H), 2.75-3.05(m, 2H),  
3.05-3.30(m, 2H), 3.75-4.00(m, 1H), 6.77(s, 1H),  
7.20-7.95(m, 10H), 8.15(d,  $J=7.7\text{Hz}$ , 1H),  
8.94(br s, 1H), 9.10(br s, 1H)

MASS(m/z) : ( $M^+$  なし), 183, 105

元素分析 :  $\text{C}_{19}\text{H}_{22}\text{N}_2\text{O}_2\cdot\text{HCl}$

計算値 C 64.67, H 6.76, N 7.94, Cl 10.05

実測値 C 64.79, H 6.93, N 7.92, Cl 9.98

### 実施例10

N-(ピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド(2.00g)と沃化メチル(1.6ml)のアセトン(100ml)溶液を3時間加熱還流し、溶媒を減圧留去すると、粗製油状の1-メチル-4-[(2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニルアセチルアミノ)メチル]ピリジニウムアイオダイドが得られた。この油状物をメタノール(50ml)に溶解し、水素化硼素ナトリウム(0.95g)を加えた。得られた混合物を室温下1時間攪拌し、次いで溶媒を留去した。残渣に酢酸エチルと1N水酸化ナトリウム水溶液を加えて分液した。有機層を分離して水、食塩水で順次洗浄した後、硫酸マグネシウムで乾燥し溶媒を留去した。残渣を4N塩酸/酢酸エチル混液で処理して結晶化し、プロパノールとメタノールの混液で再結晶すると、N-(1-メチル-1,2,3,6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド(0.41g)が得られた。

mp: 173-174 °C

IR(Nujol) : 3340, 3200, 2550, 1660, 770, 750, 720, 700cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 2.00-2.50(2H, m), 2.80-3.90(4H, m),

2.73(3H, s), 3.72(2H, d, J=6.1Hz), 5.38(1H, s),

6.82(1H, s), 7.20-7.40(10H, m), 8.37(1H, t, J=6.1Hz)

10.77(1H, br s)

MASS(m/z) : 336(M<sup>+</sup>), 183, 109

### 実施例11

実施例10と同様にして、N-(ピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミドと沃化エチルカ

ら、N-(1-エチルピリジニオ-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミドアイオダイドが得られた。

mp: 123-124 °C

IR(Nujol) : 3350, 1650, 780, 740, 720, 700cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.52(t, J=7.2Hz, 3H), 4.57(q, J=7.2Hz, 2H),  
4.60(d, J=6.0Hz, 2H), 7.00(s, 1H), 7.20-7.50(m, 10H),  
7.85(d, J=6.6Hz, 2H), 9.01(d, J=6.6Hz, 2H),  
9.13(t, J=6.0Hz, 1H)

MASS(m/z) : (M<sup>+</sup> なし) , 183, 105

#### 実施例12

N-[ (1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩(0.70g)とシアノ水素化硼素ナトリウム(0.18g)を無水メタノール(15ml)と無水アセトン(5ml)の混液に溶解させた混合物を、室温下4日間攪拌し、反応終了後溶媒を減圧下に留去した。残渣に酢酸エチルと1N水酸化ナトリウム水溶液を加え、有機層を分離した。食塩水による洗浄、硫酸マグネシウムによる乾燥の後、減圧下に溶媒を留去した。残渣を4N塩酸/1,4-ジオキサン混液で処理して結晶化すると、N-[ (1-イソプロピル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩(0.58g)が得られた。

mp: 126-127 °C (1,4-ジオキサン洗浄品)

IR(Nujol) : 3250, 1660, 760, 700cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.26(d, J=6.6Hz, 6H), 2.05-2.25(m, 1H),  
2.30-2.60(m, 1H), 2.75-3.10(m, 1H), 3.25-3.50(m, 2H),

3.58(br s, 2H), 3.73(d, J=6.0Hz, 2H), 5.42(s, 1H),  
6.83(br s, 1H), 7.15-7.60(m, 10H), 8.36(t, J=6.0Hz, 1H)  
10.30(br s, 1H)

元素分析:  $C_{22}H_{28}N_2O_2 \cdot HCl \cdot 1/2H_2O$

計算値 C 67.39, H 7.38, N 6.83, Cl 8.65

実測値 C 67.40, H 7.84, N 6.58, Cl 8.35

### 実施例13

実施例12と同様にしてN-(4-ピペリジル)-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミドからN-(1-エチルピペリジン-4-イル)-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミドのフマル酸塩を得た。

mp: 197-199 °C (イソプロピルアルコール再結晶品)

IR(Nujol): 3420, 2350, 1670, 750, 700, 670 $cm^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ): 1.05(t, J=7.2Hz, 3H), 1.45-1.65(m, 4H),

2.15-2.40(m, 2H), 2.54(q, J=7.2Hz, 2H),

2.85-3.05(m, 2H), 3.55-3.75(m, 1H), 6.50(s, 1H),

7.20-7.40(m, 11H), 7.96(d, J=8.0Hz, 1H)

元素分析:  $C_{21}H_{26}N_2O \cdot 1/2C_4H_4O_4 \cdot 1/2H_2O$

計算値 C 68.13, H 7.21, N 6.91

実測値 C 67.97, H 7.41, N 6.67

### 実施例14

実施例12と同様にしてN-(4-ピペリジル)-2,2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩からN-(1-イソプロピルピペリジン-4-イル)-2,2-ジフェニル酢酸アミドのフマル酸塩を得た。



mp: 175-177 °C (アセトン洗浄品)

IR(Nujol) : 3200, 2650, 2500, 1660, 790, 770, 740, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.13(d,  $J=6.6\text{Hz}$ , 6H), 1.45-1.75(m, 2H),  
1.75-2.00(m, 2H), 2.65-2.90(m, 2H), 3.00-3.25(m, 3H),  
3.65-3.90(m, 1H), 4.93(s, 1H), 6.54(s, 3H),  
7.10-7.35(m, 10H), 8.43(d,  $J=7.3\text{Hz}$ , 1H)

MASS(m/z) : 336( $M^+$ ), 321, 167

元素分析:  $\text{C}_{22}\text{H}_{28}\text{N}_2\text{O} \cdot 3/2(\text{C}_4\text{H}_4\text{O}_4)$

計算値	C	65.87	H	6.71	N	5.49
-----	---	-------	---	------	---	------

実測値	C	65.60	H	6.84	N	5.57
-----	---	-------	---	------	---	------

#### 実施例15

実施例12と同様にしてN-(4-ピペリジル)-2,2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩からN-(1-エチルピペリジン-4-イル)-2,2-ジフェニル酢酸アミドのフマル酸塩を得た。

mp: 179-181 °C (アセトン洗浄品)

IR(Nujol) : 3250, 1690, 1760, 790, 760, 740 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.05(t,  $J=7.2\text{Hz}$ , 3H), 1.30-1.60(m, 2H),  
1.70-1.85(m, 2H), 2.25-2.40(m, 2H),  
2.55(q,  $J=7.2\text{Hz}$ , 2H), 2.90-3.10(m, 2H),  
3.40-3.55(m, 1H), 4.91(s, 1H), 6.55(s, 2H),  
7.20-7.30(m, 10H), 8.34(d,  $J=7.4\text{Hz}$ , 1H)

MASS(m/z) : 322( $M^+$ ), 307, 167, 111

元素分析:  $\text{C}_{21}\text{H}_{26}\text{N}_2\text{O} \cdot \text{C}_4\text{H}_4\text{O}_4 \cdot 1/2\text{H}_2\text{O}$

計算値	C	67.10	H	6.98	N	6.26
-----	---	-------	---	------	---	------

実測値	C	66.78	H	6.97	N	6.05
-----	---	-------	---	------	---	------

### 実施例16

ベンジル酸 (2.21g) と 1, 1'-カルボニルジイミダゾール (1.73g) を無水塩化メチレン (45ml) 中に加えた混合物を、室温下 2.5時間攪拌した。この混合物に、4-アミノ-メチル-1-(4-メトキシベンジル)-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン (2.25g) の無水塩化メチレン (20ml) 溶液を、20分を要して徐々に滴下した。得られた混合物を室温下45分攪拌し、溶媒を留去した。残渣に酢酸エチルと 1 N 水酸化ナトリウム水溶液を加え、有機層を分離して水洗 (2回) し、これを硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、塩化メチレンとメタノールの混液 (10:1) を溶出液として精製すると、淡黄色油状の N-[1-(4-メトキシベンジル)-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル) メチル]-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド (3.47g) が得られた。

IR (CHCl<sub>3</sub>) : 3370, 1660, 1610, 750, 730, 700 cm<sup>-1</sup>

NMR (CDCl<sub>3</sub>, δ) : 2.02 (br s, 2H), 2.52 (t, J=5.8 Hz, 2H),

2.91 (br s, 2H), 3.50 (s, 2H), 3.80 (s, 3H),

4.10 (br s, 1H), 4.14 (s, 2H), 5.39 (br s, 1H),

6.39 (br s, 1H), 6.85 (d, J=12.7 Hz, 2H),

7.20-7.50 (m, 12H)

MASS (m/z) : 442 (M<sup>+</sup>), 202, 121

### 実施例17

実施例16と同様にして、ベンジル酸と 1-メチル-4-アミノメチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンから N-(1-メ

チル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル) メチル-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド蓚酸塩を得た。

mp: 185-190 °C

IR(Nujol) : 1650, 1600, 770, 750, 730, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 2.09(br s, 2H), 2.50(s, 3H),

2.81(t, J=5.9Hz, 2H), 3.19(br s, 2H),

3.68(d, J=6.0Hz, 2H), 4.98(br, 2H), 5.37(s, 1H),

7.20-7.45(m, 11H), 8.26(t, J=6.0Hz, 1H)

MASS(m/z) : 336( $M^+$ ), 215, 183, 109

#### 実施例18

実施例16と同様にして、ベンジル酸と1-プロピル-4-アミノメチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンからN-(1-プロピル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩を得た。

mp: 96-98 °C (酢酸エチル/メタノール/ジイソプロピルエーテル混液から再結晶)

IR(Nujol) : 3250, 1660, 770, 740, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 0.89(t, J=7.3Hz, 3H), 1.60-1.80(m, 2H),

2.00-2.55(m, 2H), 2.90-4.20(m, 8H), 5.89(br s, 1H),

6.82(s, 1H), 7.20-7.45(m, 10H), 8.37(t, J=6.1Hz, 1H),

10.50(br s, 1H)

MASS(m/z) : 364( $M^+$ ), 335, 183, 137

元素分析:  $\text{C}_{23}\text{H}_{25}\text{N}_2\text{O}_2 \cdot \text{HCl}$

計算値 C 66.80, H 7.41, N 6.77, Cl 8.57

実測値 C 66.77, H 7.76, N 6.44, Cl 8.57

### 実施例19

実施例16と同様にして、ベンジル酸と1-ベンジル-4-アミノメチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンからN-(1-ベンジル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩を得た。

mp: 139-141 °C (メタノール/酢酸エチル/ジイソプロピルエーテル混液から再結晶)

IR(Nujol) : 3450, 3200, 2570, 1660, 750, 710, 680 cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 2.00-2.50(m, 2H), 2.70-3.50(m, 2H),

3.50(br s, 2H), 3.72(d, J=6.0Hz, 2H), 4.30(s, 2H),

5.38(s, 1H), 6.81(s, 1H), 7.25-7.63(m, 15H),

8.36(t, J=6.0Hz, 1H), 10.92(br s, 1H)

元素分析: C<sub>27</sub>H<sub>28</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub>·HCl

計算値(0.8 H<sub>2</sub>Oとして) C 69.98, H 6.66, N 6.05, Cl 7.65

実測値 C 69.94, H 6.67, N 5.94, Cl 7.63

### 実施例20

実施例16と同様にして、ベンジル酸と1-エチル-3-アミノメチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンからN-(1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-3-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2, 2-ジフェニル酢酸アミド 1/2フマル酸塩を得た。

mp: 185-186 °C (イソプロピルアルコールから再結晶)

IR(Nujol) : 3400, 2750-2600, 1675, 1590 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.02(3H, t,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ),

2.09(2H, m,  $=\text{CHCH}_2\text{CH}_2$ ), 2.45-2.65(4H, m,  $\text{NCH}_2 \times 2$ ),

2.92(2H, s,  $=\text{CCH}_2\text{N}$ ), 3.68(2H, m,  $\text{CONCH}_2$ ),

5.52(1H, br s,  $=\text{CH}$ ), 6.51(2H, s, fumaric acid= $\text{CH}$ ),

7.25-7.4(10H, m, aromatic H), 8.21(1H, br s,  $\text{CONH}$ )

MASS( $m/z$ ) : 350( $M^+$ ), 183, 124(base), 105

元素分析 :  $\text{C}_{22}\text{H}_{26}\text{N}_2\text{O}_2 \cdot 1/2\text{C}_4\text{H}_4\text{O}_4$

計算値 C 70.57, H 6.91, N 6.86

実測値 C 70.36, H 7.11, N 6.72

#### 実施例21

4, 4'-ジフルオロベンゾフェノン(2.0g)と沃化亜鉛(0.1g)を無水塩化メチレン(15ml)に加えた混合物に、室温下シアン化トリメチルシリル(1.35ml)を加えた。得られた混合物を同温度で40時間攪拌し、溶媒を減圧留去した。残渣に濃塩酸(30ml)を加え、90℃で14時間攪拌した。反応混合物に酢酸エチルと水を加えて分液し、有機層を分離して減圧濃縮した。残渣にジイソプロピルエーテルと1N水酸化ナトリウム水溶液を加えて分液し、有機層を分離して1N水酸化ナトリウム水溶液で3回洗浄した。水層を全て合わせ、濃塩酸を加えて酸性とした後、酢酸エチルで2度抽出した。

有機溶媒層を合わせて水および食塩水で順次洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を留去すると粗製の4, 4'-ジフルオロベンジル酸(0.80g)が得られた。この粗製品(0.80g)とN, N'-カルボニルジイミダゾール(0.6g)を無水塩化メチレンに溶解し、この溶液に4-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テト

## 3.4

ラヒドロピリジン (0.60g) の塩化メチレン溶液を室温下徐々に滴下した。

得られた混合物を室温で攪拌し、減圧下に溶媒を留去した。残渣に酢酸エチルと 1 N 水酸化ナトリウム水溶液を加えて分液し、分取した有機層を水、次いで食塩水で洗浄した後硫酸マグネシウムで乾燥し、溶媒を減圧留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィ、次いでアルミナカラムクロマトグラフィに展開して精製し、4 N 塩酸で処理すると、N-[(1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル]-2-ヒドロキシ-2, 2-ビス(4-フルオロフェニル)酢酸アミド塩酸塩が得られた。

mp: 155-157 °C (ジイソプロピルエーテル洗浄品)

IR(Nujol) : 3350, 3270, 2500, 1660, 1600, 820, 770 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.24(t, J=7.2Hz, 3H), 2.00-2.45(m, 2H),

2.85-3.80(m, 6H), 3.09(quartet, J=7.2Hz, 2H),

5.39(s, 1H), 6.96(s, 1H), 7.10-7.20(m, 4H),

7.35-7.45(m, 4H), 8.46(br s, 1H), 10.21(br s, 1H)

MASS(m/z) : 386( $M^+$ ), 371, 219, 123, 110

元素分析:  $\text{C}_{22}\text{H}_{24}\text{N}_2\text{O}_2\text{F}_2 \cdot \text{HCl} \cdot 1/3\text{H}_2\text{O}$

計算値 C 61.61, H 6.03, N 6.53, Cl 8.27

実測値 C 61.69, H 6.09, N 6.54, Cl 8.27

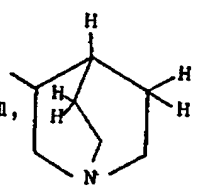
#### 実施例 22

2-クロロ-2, 2-ジフェニルアセチルクロリド (6.30g) をベンゼン (17ml) / n-ヘキサン (11ml) 混液に溶解させた溶液を室温下に攪拌しておき、これに 3-アミノ-1-アザビシクロ[2.2.2]オクタンのベンゼン (12ml) 溶液を滴下した。得られた混合物を

室温下に30時間30分攪拌し、トルエンと水を加えて分液した。有機層を1 N 塩酸で2度抽出し、水層を合してジエチルエーテルで洗浄した。70℃で1時間攪拌した後、氷水で冷却し、更に5%水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性とした後、酢酸エチルで2度抽出した。酢酸エチル層を合し、食塩水で洗浄した後、硫酸ナトリウムで乾燥し、溶媒を減圧留去した。残渣をジイソプロピルエーテルで洗浄すると無色粉末 (2.90g) が得られ、これを常法により塩酸塩に導いた。これをエタノールで再結晶すると、無色粉末状の N-(1-アザビシクロ[2.2.2]オクタン-3-イル)-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩が得られた。

mp: 261-265 °C (dec.)

IR(Nujol) : 3300, 2800-2300, 1660 cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.6-2.1(5H, m, ,

3.05-3.6(6H, m, N(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>), 4.15(1H, m, CONHCH<sub>2</sub>),

6.87(1H, s, OH), 7.25-7.45(10H, m, aromatic H),

8.59(1H, d, J=7Hz, CONH), 10.36(1H, br s, HCl)

MASS(m/z) : 336(M<sup>+</sup>), 183(base), 105

元素分析 : C<sub>21</sub>H<sub>24</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub>·HCl

計算値 C 67.64, H 6.76, N 7.51

実測値 C 67.67, H 7.10, N 7.31

### 実施例23

実施例16と同様にして、4-アミノ-1-エトキシカルボニルピ

ペリジンとベンジル酸からN-(4-エトキシカルボニルピペリジ  
ン-4-イル)-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド  
を得た。

mp: 128-131 °C (n-ヘキサン洗浄品)

IR(Nujol) : 3300, 1650, 1620, 760, 740, 720cm<sup>-1</sup>

NMR(CDC1<sub>3</sub>, δ) : 1.00-1.41(m, 2H), 1.23(t, J=7.1Hz, 3H),

1.70-2.00(m, 2H), 2.75-3.00(m, 2H); 3.90-4.20(m, 3H),

4.08(q, J=7.1Hz, 2H), 6.67(d, J=8.0Hz, 1H),

6.93(s, 1H), 7.20-7.50(m, 10H)

MASS(m/z) : 382(M<sup>+</sup>), 370, 216, 183

#### 実施例24

実施例16と同様にして、4-(2-アミノエチル)-1-メチル  
ピペリジンとベンジル酸からN-[2-(1-メチルピペリジン-  
4-イル)エチル]-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸ア  
ミドフマル酸塩を得た。シリカゲルカラムクロマトグラフィを用  
い、クロロホルム/メタノール混液で溶出し白色粉末品とした。

mp: 151-152 °C

IR(Nujol) : 3360, 3250, 3200, 2740-2100, 1700, 1670cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.15-1.45(5H, m, CH and CH<sub>2</sub> × 2),

1.7(2H, m, CH<sub>2</sub>), 2.35(2H, m, CH<sub>2</sub>), 2.45(3H, s, CH<sub>3</sub>),

3.0-3.2(4H, m, CH<sub>2</sub> × 2), 6.50(2H, s, HC=CH),

7.2-7.4(11H, m, aromatic H and OH),

8.15(1H, t, J=6Hz, NH)

MASS(m/z) : 352(M<sup>+</sup>), 337, 183(base)

元素分析 : C<sub>22</sub>H<sub>28</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub> · C<sub>4</sub>H<sub>4</sub>O<sub>4</sub>



計算値 C 66.65, H 6.88, N 5.98

実測値 C 67.02, H 7.05, N 5.94

### 実施例25

実施例16と同様にして、3-アミノメチル-1-エチルピペリジンとペンシル酸からN-(1-エチルピペリジン-3-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸塩酸塩の無色結晶を得た。

#### 遊離塩基

IR(Nujol) : 3310, 2800-2300, 1660 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{CDCl}_3$ ,  $\delta$ ) : 0.95(1H, m, piperidine H),

1.00(3H, t,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ), 1.5-1.95(6H, m, piperidine H)

2.30(2H, quartet,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{NCH}_2\text{CH}_3$ ),

2.7(2H, m, piperidine H), 3.1-3.35(2H, m,  $\text{CONCH}_2$ ),

4.15(1H, br, OH), 6.86(1H, br t, NH),

7.25-7.53(10H, m, aromatic H)

MASS( $m/z$ ) : 352( $M^+$ ), 337, 183, 105(base)

#### 塩酸塩

mp: 181-182  $^{\circ}\text{C}$  (イソプロピルアルコール再結晶品)

IR(Nujol) : 3360, 3220, 2660, 2570, 1655 $\text{cm}^{-1}$

NMR( $\text{DMSO}-d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.05(1H, m, piperidine H),

1.16(3H, t,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ), 1.75(3H, m, piperidine H),

2.1(1H, m, piperidine H), 2.45(1H, m, piperidine H),

2.7(1H, m, piperidine H),

2.95-3.35(6H, m,  $\text{NCH}_2\text{CH}_3$ , piperidine H, and  $\text{CONCH}_2$ ),

6.79(1H, s, OH), 7.2-7.45(10H, m, aromatic H),

8.40(1H, t, J=6Hz, NH), 10.2(1H, br, HC1)

MASS(m/z) : 352(M<sup>+</sup>), 337, 183, 105(base)

元素分析 : C<sub>22</sub>H<sub>28</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub>·HCl

計算値 C 67.94, H 7.52, N 7.20

実測値 C 67.76, H 7.68, N 7.15

#### 実施例26

実施例16と同様にして、2-(2-アミノエチル)-1-メチルピロリジンとベンジル酸からN-[2-(1-メチルピロリジン-2-イル)エチル-2-ヒドロキシ-2,2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩を得た。

mp: 155-157 °C (エタノール/酢酸エチル混液再結晶品)

IR(Nujol) : 3400, 3180, 2620, 1660, 770cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.40-1.95(m, 4H), 1.95-2.25(m, 2H),

2.64(s, 3H), 2.75-3.10(m, 2H), 3.10-3.25(m, 2H),

3.35-3.55(m, 1H), 6.76(s, 1H), 7.20-7.50(m, 10H),

8.38(br s, 1H), 10.36(br s, 1H)

MASS(m/z) : 338(M<sup>+</sup>), 323, 183, 155, 84

元素分析 : C<sub>21</sub>H<sub>30</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub>·HCl

計算値 C 67.28, H 7.26, N 7.47, Cl 9.46

実測値 C 67.29, H 7.53, N 7.46, Cl 9.44

#### 実施例27

実施例16と同様にして、4-アミノ-1-エトキシカルボニルピペリジンと2,2-ジフェニル酢酸からN-(1-エトキシカルボニルピペリジン-4-イル)-2,2-ジフェニル酢酸アミドを得た。

mp: 163-165 °C (n-ヘキサン洗浄品)

IR(Nujol) : 3300, 1650, 770, 750, 730, 700cm<sup>-1</sup>

NMR(CDCl<sub>3</sub>, δ) : 1.10-1.35(m, 5H), 1.80-2.00(m, 2H),  
2.80-2.95(m, 2H), 3.90-4.15(m, 5H), 4.90(s, 1H),  
5.52(d, J=7.5Hz, 1H), 7.20-7.40(m, 10H)

MASS(m/z) : 366(M<sup>+</sup>), 199

### 実施例28

実施例16と同様にして、4-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンと3, 3-ジフェニルプロピオン酸からN-(1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-3, 3-ジフェニルプロピオン酸アミド塩酸塩を得た。

mp: 133-134 °C (イソプロピルアルコール/ジイソプロピルエーテル混液再結晶品)

IR(Nujol) : 3330, 2600, 1720, 1640, 1600, 750, 710cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.18(t, J=7.2Hz, 3H), 1.95(br s, 2H),  
2.89(d, J=8.2Hz, 2H), 3.01(q, J=7.2Hz, 2H),  
2.95-3.10(m, 2H), 3.39(br s, 2H), 3.54(br s, 2H),  
4.47(t, J=8.2Hz, 1H), 4.88(s, 1H), 7.10-7.30(m, 10H),  
8.13(br s, 1H)

MASS(m/z) : 348(M<sup>+</sup>), 333, 167, 123

元素分析: C<sub>23</sub>H<sub>28</sub>N<sub>2</sub>O·C<sub>2</sub>H<sub>2</sub>O<sub>4</sub>

計算値 C 68.47, H 6.90, N 6.39

実測値 C 68.46, H 6.97, N 6.31

### 実施例29

実施例16と同様にして4-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンと3, 3-ジフェニルプロペン酸からN-(1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロ-4-イル)メチル-3, 3-ジフェニルプロペン酸アミド蓚酸塩を得た。

mp: 163-164 °C (イソプロピルアルコール/酢酸エチル/メタノール混液再結晶品)

IR(Nujol) : 3330, 2720, 1720, 1640, 770, 700cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.20(t, J=7.3Hz, 3H), 2.11(br s, 2H),  
3.08(q, J=7.3Hz, 2H), 3.00-3.20(m, 2H), 3.51(br s, 2H),  
3.55-3.70(m, 2H), 4.40(br s, 2H), 5.22(s, 1H),  
6.50(s, 1H), 7.10-7.40(m, 10H), 8.15-8.20(m, 1H)

MASS(m/z) : 346(M<sup>+</sup>), 207, 123

元素分析: C<sub>23</sub>H<sub>26</sub>N<sub>2</sub>O·C<sub>2</sub>H<sub>2</sub>O<sub>4</sub>

計算値 C 68.79, H 6.47, N 6.42

実測値 C 69.21, H 6.53, N 6.40

### 実施例30

実施例16と同様にして4-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンと5-ヒドロキシ-5H-10, 11-ジヒドロジベンゾ[a, d]シクロヘプテン-5-カルボン酸からN-(1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-2-ヒドロキシ-2-(5-ヒドロキシ-5H-10, 11-ジヒドロジベンゾ[a, d]シクロヘプテン-5-イル)酢酸アミド塩酸塩が得られた。

遊離塩基: 無色結晶

IR(Nujol) : 3460, 3390, 2740, 1640cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 0.98(3H, t,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ),

1.86(2H, br s,  $\text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}$ ),

2.25-2.45(4H, m,  $\text{CH}_2\text{CH}_2\text{NCH}_2\text{CH}_3$ ),

2.75-2.9(4H, m,  $=\text{CHCH}_2\text{N}$  and cycloheptene  $\text{CH}_2$ ),

3.3-3.45(2H, m, cycloheptene  $\text{CH}_2$ ),

3.54(2H, d,  $J=6\text{Hz}$ ,  $\text{CONCH}_2$ ), 5.29(1H, s,  $=\text{CH}$ ),

6.81(1H, s, OH), 7.05-7.25(6H, m, aromatic H),

7.46(1H, t,  $J=6\text{Hz}$ , NH), 7.75-7.85(2H, m, aromatic H)

MASS( $m/z$ ) : 376( $M^+$ ), 209, 123(base), 110

塩酸塩 : 無色結晶

mp : 158-159.5  $^{\circ}\text{C}$  (酢酸エチル結晶品)

IR(Nujol) : 3420, 3330, 2730-2000, 1655 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.23(3H, t,  $J=7\text{Hz}$ ,  $\text{CH}_3$ ),

1.95-2.45(2H, m,  $\text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}$ ),

2.75-3.15(5H, m,  $\text{NCH}_2\text{CH}_3$ , cycloheptene  $\text{CH}_2$ , and

pyridine H), 3.3-3.45(4H, m, pyridine  $\text{H}\times 2$  and

cycloheptene  $\text{CH}_2$ ),

3.35-3.65(3H, m,  $\text{CONCH}_2$  and pyridine  $\text{H}\times 2$ ),

5.30(1H, br s,  $=\text{CH}$ ), 6.89(1H, s, OH),

7.05-7.25(6H, m, aromatic H),

7.75-7.85(3H, m, NH and aromatic  $\text{H}\times 2$ ),

10.5(1H, br, HCl)

MASS( $m/z$ ) : 376( $M^+$ ), 209(base), 123, 110

元素分析 :  $\text{C}_{24}\text{H}_{29}\text{N}_2\text{O}_2\text{Cl}\cdot 3/2\text{H}_2\text{O}$

計算値 C 65.52, H 7.27, N 6.37 Cl 8.06

実測値 C 65.68, H 7.27, N 6.38, Cl 8.06

### 実施例31

2, 2-ジフェニルプロピオン酸(0.70g)を塩化チオニル(2.3 ml)に溶解した溶液を2時間加熱還流し、反応終了後溶媒を減圧留去した。残渣にトルエン(10ml)を加え、再び溶媒を減圧留去した。残渣を無水塩化メチレン(10ml)に溶解して得られる溶液に、4-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン(0.43g)とトリエチルアミン(1.5ml)の無水塩化メチレン(10ml)溶液を室温下に加えた。得られた混合物を室温下に3時間攪拌し、反応混合物に塩化メチレンと水を加えた。有機層を分離して水(3回)、1N水酸化ナトリウム水溶液、食塩水の順に洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を減圧留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、塩化メチレンとメタノールの混液(20:1)を溶出液として得られたものを4N塩酸/酢酸エチル混液で処理し、更にイソプロピルアルコール/ジイソプロピルエーテル混液で再結晶すると、N-(1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-2, 2-ジフェニルプロピオン酸アミド塩酸塩(0.10g)が得られた。

mp: 93-94 °C

IR(Nujol): 3450, 3350, 2670, 2600, 1630, 760, 740 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ): 1.24(t, J=7.2Hz, 3H), 1.89(s, 3H),  
2.00-3.70(m, 8H), 3.06(q, J=7.2Hz, 2H), 5.31(br s, 1H)  
7.10-7.40(m, 10H), 7.64(br s, 1H), 10.08(br s, 1H)

元素分析:  $\text{C}_{23}\text{H}_{28}\text{N}_2\text{O} \cdot \text{HCl}$

計算値 C 68.56, H 7.75, N 6.95, Cl 8.80

実測値 C 68.82, H 7.95, N 6.89, Cl 8.95

### 実施例32

実施例31と同様にして4-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンと2, 2-ジフェニル酢酸クロリドからN-(1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン-4-イル)メチル-2, 2-ジフェニル酢酸アミド塩酸塩を得た。

mp: 205-207 °C (エタノール/ジイソプロピルエール混液再結晶品)

IR(Nujol) : 3270, 3070, 2670, 2550, 2470, 1640, 750, 700 $\text{cm}^{-1}$

NMR(DMSO- $d_6$ ,  $\delta$ ) : 1.23(t, J=7.2Hz, 3H), 2.00-2.40(m, 2H),

2.80-3.00(m, 4H), 3.04(q, J=7.2Hz, 2H),

3.60-3.80(m, 2H), 5.06(s, 1H), 5.39(s, 1H),

7.10-7.35(m, 10H), 8.67(t, J=5.7Hz, 1H),

10.43(br s, 1H)

MASS(m/z) : 334( $M^+$ ), 167, 123

元素分析:  $\text{C}_{22}\text{H}_{26}\text{N}_2\text{O} \cdot \text{HCl}$

計算値 C 71.24, H 7.34, N 7.55, Cl 9.56

実測値 C 71.30, H 7.62, N 7.52, Cl 9.73

### 実施例33

2-クロロ-2, 2-ジフェニル酢酸クロリド(0.80g)と4-ジエチルアミノメチルピペリジン(0.51g)の混合物を室温下暫時攪拌し、塩化メチレン(10ml)を加えて希釈した。得られた混合物を同温度で1時間攪拌し、これに酢酸エチルと水を加えて分液した。酢液エチル層を水酸化ナトリウム水溶液、次いで水で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を減圧留去した。残渣をジオキサン

(7.4ml) と 1 N 塩酸 (3.7ml) の混液に溶解した。この溶液を 90℃ で 1 時間 30 分攪拌し、溶媒を減圧留去した後、残渣を酢酸エチルで抽出した。抽出液を水酸化ナトリウム水溶液、次いで水で洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を減圧留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、クロロホルムとメタノールで溶出すると、油状の 1 - (2, 2 - ジフェニル - 2 - ヒドロキシアセチル) - 4 - ジエチルアミノメチルピペリジン (0.33g) が得られた。本品を常法により塩酸塩 (0.20g) に導いた。

#### 遊離塩基

NMR (CDCl<sub>3</sub>, δ) : 0.93 (6H, t, J=7Hz, CH<sub>3</sub> × 2),  
0.95-1.95 (5H, m, piperidine CH<sub>2</sub>CHCH<sub>2</sub>),  
2.06 (2H, d, J=6.5Hz, CHCH<sub>2</sub>N),  
2.43 (4H, quartet, J=7Hz, N(CH<sub>2</sub>CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>),  
2.68 (2H, m, CONCH × 2), 3.59 (1H, m, CONCH),  
4.74 (1H, m, CONCH), 6.22 (1H, s, OH),  
7.4 (10H, m, aromatic H)

MASS (m/z) : 380 (M<sup>+</sup>), 183, 86 (base)

#### 塩酸塩

mp : 175-176 °C (イソプロピルアルコール再結晶品)

IR (Nujol) : 3400, 3160, 2760-2300, 1610 cm<sup>-1</sup>

NMR (DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 0.7 (1H, m, piperidine CH),  
1.05 (1H, m, piperidine CH), 1.18 (6H, t, J=7Hz, CH<sub>3</sub> × 2)  
1.45 (1H, m, piperidine CH), 1.9 (2H, m, piperidine CH),  
2.65 (2H, m, CONCH × 2), 2.8 (2H, m, CHCH<sub>2</sub>N),  
3.05 (4H, m, N(CH<sub>2</sub>CH<sub>3</sub>)<sub>2</sub>), 4.15 (1H, m, CONCH),



4.4(1H, m, CONCH), 6.92(1H, s, OH),

7.3(10H, m, aromatic H), 9.9(1H, br, HCl)

MASS(m/z) : 380(M<sup>+</sup>), 183, 86(base)

元素分析 : C<sub>24</sub>H<sub>32</sub>N<sub>2</sub>O<sub>2</sub>·HCl·1/2H<sub>2</sub>O

計算値 C 67.67, H 8.04, N 6.58, Cl 8.32

実測値 C 67.62, H 8.08, N 6.51, Cl 8.32

### 実施例34

4-ブromo-2, 2-ジフェニル酪酸(1.5g)と塩化チオニル(1.37ml)の無水クロロホルム(20ml)溶液を4時間加熱還流した後、溶媒を減圧蒸留し、4-ブromo-2, 2-ジフェニル酪酸クロリドの粗製品を得た。

一方4-アミノメチル-1-エチル-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジン(0.73g)とトリエチルアミン(2.6ml)の塩化メチレン(15ml)溶液を調整しておき、これに先に得た粗製の4-ブromo-2, 2-ジフェニル酪酸クロリドの塩化メチレン(15ml)溶液を室温下に加え、得られた混合物を一夜攪拌した。溶媒を減圧留去し、残渣に酢酸エチルと1N水酸化ナトリウム水溶液を加えて分液した。有機層を分取して水(3回)、食塩水で順次洗浄し、硫酸マグネシウムで乾燥した後、溶媒を減圧留去した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィに展開し、塩化メチレン/メタノール(15:1混液)で溶出し、更にアルミナカラムクロマトグラフィに展開してn-ヘキサン/酢酸エチル(20:1)混液で溶出した。得られた遊離塩基体を常法に従ってフマル酸(229mg)で処理すると、1-エチル-4-[(3, 3-ジフェニル-2-オキソピロリジン-1-イル)メチル]-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンのフマル酸

塩(0.54g)が得られた。

mp: 90°C ~ (分解) (n-ヘキサン洗浄品)

IR(Nujol) : 2500, 1680, 800, 770, 750, 700cm<sup>-1</sup>

NMR(DMSO-d<sub>6</sub>, δ) : 1.11(t, J=7.2Hz, 3H), 2.17(br s, 2H),  
2.73(q, J=7.2Hz, 2H), 2.80-2.90(m, 4H), 3.24(br s, 2H)  
3.86(s, 2H), 4.11(t, J=6.4Hz, 2H), 5.53(s, 1H),  
6.52(s, 2H), 7.10-7.40(m, 10H)

MASS(m/z) : 360(M<sup>+</sup>), 238, 165, 123

## 請求の範囲

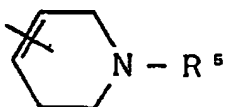
## 1. 一般式



〔式中、 $R^1$  および  $R^2$  は適当な置換基を有していてもよいアリール基、

$R^3$  は水素、水酸基または低級アルキル基、

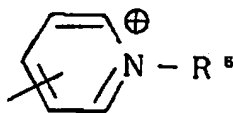
$R^4$  は (i) 式：



(式中、 $R^5$  は水素、メチル基、エチル基、プロピル基、  
イソプロピル基またはイミノ保護基を意味する)

で示される基、

(ii) 式：



(式中、 $R^5$  は低級アルキル基を意味する)

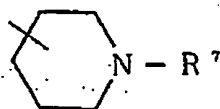
で示される基、

(iii) 式:



で示される基、または、

(iv) 式:



(式中、 $R^7$  は水素、低級アルキル基またはイミノ保護基を意味する)

で示される基、

$A^1$  および  $A^2$  は低級アルキレン基、

$m$  および  $n$  はそれぞれ 0 又は 1 をそれぞれ意味する。

(ただし、(a)  $R^1$  および  $R^2$  がフェニル基であり、 $R^3$  が水酸基であり、 $A^2$  がメチレン基であり、 $m$  が 0 であり、 $n$  が 1 のときは、 $R^5$  はエチル基でなく、また、

(b)  $R^1$  および  $R^2$  がフェニル基であり、 $R^3$  が水酸基であり、 $m$  および  $n$  が 0 のときは、 $R^7$  はメチル基でない。) ]

で示される置換酢酸化合物および医薬として許容されるその塩類。

2. 請求項 1 に記載の置換酢酸アミド化合物を有効成分として含有する排尿障害の予防および／または治療剤。

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP93/00142

## A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int. Cl<sup>5</sup> C07D211/26, 211/56, 211/70, 211/72, 213/75, 453/02,  
A61K31/435, 31/445

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int. Cl<sup>5</sup> C07D211/26, 211/56, 211/70, 211/72, 213/75, 453/02,  
A61K31/435, 31/445

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

CAS ONLINE

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP, B1, 44-17387 (Sandoz AG.), July 31, 1969 (31. 07. 69), Lines 38 to 40, example 1 & US, A, 3454566 & FR, A, 1522566	1
X	Chemical Abstracts 81(21) (1974) Abstract No. 135892K	1
X	Chemical Abstracts 79(25) (1973) Abstract No. 146358p	1
Y	JP, B2, 60-27671 (Elrebesse Pharma (Lojjeel Berulonscoum) s.p.A.), June 29, 1985 (29. 06. 85), & US, A, 4405627 & DE, A, 3020407 & FR, A, 2465723	1-2
Y	JP, A, 2-262548 (Fujisawa Pharmaceutical Co., Ltd.), October 25, 1990 (25. 10. 90), Claim; lines 9 to 20, upper right column,	1-2

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.
 ☐ See patent family annex.

## \* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier document but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&amp;" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

May 14, 1993 (14. 05. 93)

Date of mailing of the international search report

June 8, 1993 (08. 06. 93)

Name and mailing address of the ISA/

Japanese Patent Office

Facsimile No.

Authorized officer

Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP93/00142

## C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
	page 12, line 18, upper left column to line 14, upper right column, page 13, lines 8 to 11, upper right column, page 19, test 1 to 2, & EP, A, 383256 & US, A, 5066680	

<p>A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))</p> <p>Int. Cl.<sup>8</sup> C07D211/26, 211/56, 211/70, 211/72, 213/75, 453/02, A61K31/435, 31/445</p>														
<p>B. 調査を行った分野</p> <p>調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))</p> <p>Int. Cl.<sup>8</sup> C07D211/26, 211/56, 211/70, 211/72, 213/75, 453/02, A61K31/435, 31/445</p> <p>最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの</p>														
<p>国際調査で使った電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)</p> <p>CAS ONLINE</p>														
<p>C. 関連すると認められる文献</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>引用文献の カテゴリー*</th> <th>引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示</th> <th>関連する 請求の範囲の番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X</td> <td>JP, B1, 44-17387 (サンドツ・アクチングゼルシャフト) 31. 7月. 1969 (31. 07. 69) 例1, 第38-40行&amp;US, A, 3454566 &amp;FR, A, 1522566</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>X</td> <td>Chemical Abstracts 81 [21] (1974) 抄録番号135892K</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>X</td> <td>Chemical Abstracts 79 [25] (1973)</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p><input checked="" type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。</p> <p>* 引用文献のカテゴリー</p> <p>「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの</p> <p>「E」 先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの</p> <p>「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)</p> <p>「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献</p> <p>「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献</p> <p>「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの</p> <p>「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの</p> <p>「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの</p> <p>「&amp;」 同一パテントファミリー文献</p>			引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号	X	JP, B1, 44-17387 (サンドツ・アクチングゼルシャフト) 31. 7月. 1969 (31. 07. 69) 例1, 第38-40行&US, A, 3454566 &FR, A, 1522566	1	X	Chemical Abstracts 81 [21] (1974) 抄録番号135892K	1	X	Chemical Abstracts 79 [25] (1973)	1
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号												
X	JP, B1, 44-17387 (サンドツ・アクチングゼルシャフト) 31. 7月. 1969 (31. 07. 69) 例1, 第38-40行&US, A, 3454566 &FR, A, 1522566	1												
X	Chemical Abstracts 81 [21] (1974) 抄録番号135892K	1												
X	Chemical Abstracts 79 [25] (1973)	1												
<p>国際調査を完了した日</p> <p>14. 05. 93</p>		<p>国際調査報告の発送日</p> <p>08.06.93</p>												
<p>名称及びあて先</p> <p>日本国特許庁 (ISA/JP)</p> <p>郵便番号100</p> <p>東京都千代田区霞が関三丁目4番3号</p>		<p>特許庁審査官 (権限のある職員)</p> <p>内 藤 伸 一</p> <p>⑤</p> <p>4 C 9 1 6 5</p> <p>電話番号 03-3581-1101 内線 3452</p>												

## C (続き)。 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	<p>抄録番号 146358 p</p> <p>JP, B2, 60-27671 (エルレビエツセ フアルマ (ロジエール ベルロンスコウム) ソチエタ ベル アツイオーニ) 29. 6月, 1985 (29. 06. 85) &amp;US, A, 4405627 &amp;DE, A, 3020407 &amp;FR, A, 2465723</p>	1-2
Y	<p>JP, A, 2-262548 (藤沢薬品工業株式会社) 25. 10月, 1990 (25. 10. 90) 特許請求の範囲, 第12頁右上欄第9-20行, 第13頁左上欄第18行-右上欄第14行, 第19頁 右上欄第8-11行, 試験1-2 &amp;EP, A, 383256 &amp;US, A, 5066680</p>	1-2



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**